がんばろう沖縄！日本中が応援団！私たちにも今、できることがある！

2019年1月29日（月）

滋賀自治労連ニュース

辺野古新基地建設反対特報「響魂」

内部資料

滋賀県大津市梅林
１丁目３番３０号
滋賀自治労連
組織部発行

電話０７７－５２７－５５１１　FAX０７７－５２７－５５２２　E-mail：sigaziti@mx.biwa.ne.jp　ホームページ；http://shiga-jichiroren.com/

『辺野古新基地建設ストップ滋賀の会』が連帯学習会を開催！

現場では誰一人あきらめていない

【早坂義郎さん　1/27 彦根市民会館にて】

辺野古新基地建設ストップ滋賀の会が主催する「沖縄県民投票支援学習交流会」が、1/26 に大津で、1/27 に彦根で開催されました。

講師は、沖縄・名護共同センターの早坂義郎さんでした。早坂さんは、ご出身の千葉県から単身赴任で既に 4 年近く支援活動に参加され、全国から参加する支援者へのレクチャーや、共同センターニュースの発行など現場の最前線でご奮闘・ご活躍されています。

早坂さんは、ご自身で体験された驚きや感動を伝えたいと、辺野古住民運動の歴史や現状についてご講演されました。

「琵琶湖が埋め立てられるとしたら、みなさんもきっと同じ気持ちになるのではないでしょうか。歴史は民衆がつくるもので、（直線的ではなく）らせん状に発展します。我々の側が負けるときもありますが、それをバネにしてまた前進します。道理と正義は我々にあり、必ず我々が勝利します。オール沖縄からオール日本へ。基地のない平和な沖縄・日本を実現しましょう。」と結びました。

【1/27 辺野古ゲート前で知事を囲んで「デニってる」若者たち】

辺野古県民投票実現のドラマの舞台裏

県民投票の全自治体実施を求めた元山仁士郎さん（県民投票の会代表・写真中央左手）が昨年、一橋大学大学院を一年間休学してまで取り組んだ「辺野古県民投票求める署名運動」は、当初は手応えが悪く伸び悩みました。それを知った金秀グループの呉屋守将会長が、スーパー敷地内に署名会場の提供を申し出て協力体制を得るや、これが強力な追い風となり、必要得票数の 23000 の 4 倍超の 92848 票を集め条例制定が確定しました。辺野古に行きたくても行けない人たちが、日常生活の中で気軽に署名できる環境ができたことが大きかったようです。最後まで実施を渋っていた５市（沖縄市、うるま市、宜野湾市、宮古市、石垣市）も、元山さんの命を削ってまでのハンガーストライキ（宜野湾市役所前で 4 日間 105 時間で血圧急降下のためドクターストップで断念）と県民世論に押され、「賛成」「反対」に「どちらでもない」を加えた３択案で実施に合意。かくして 2019.2.24 の県民投票は、多くの人々のドラマと想いをつなぎ実現します。2.24 県民投票は、私たちの想像以上に大きな可能性を秘めています。裁判闘争でも、裁判官が否定出来ない事実を示せます。圧倒的民意を国内外に示し、これを踏みにじる悪政を世界中に示して日米両政府を追い詰めます。また、オール沖縄候補の勝利の土台をつくるとともに、オール沖縄と各地島ぐるみ会議も強化されます。

歴史は民衆がつくるもの。らせん状に発展する！

米軍基地こそ経済発展の最大の阻害要因！

オール沖縄の原点は13人

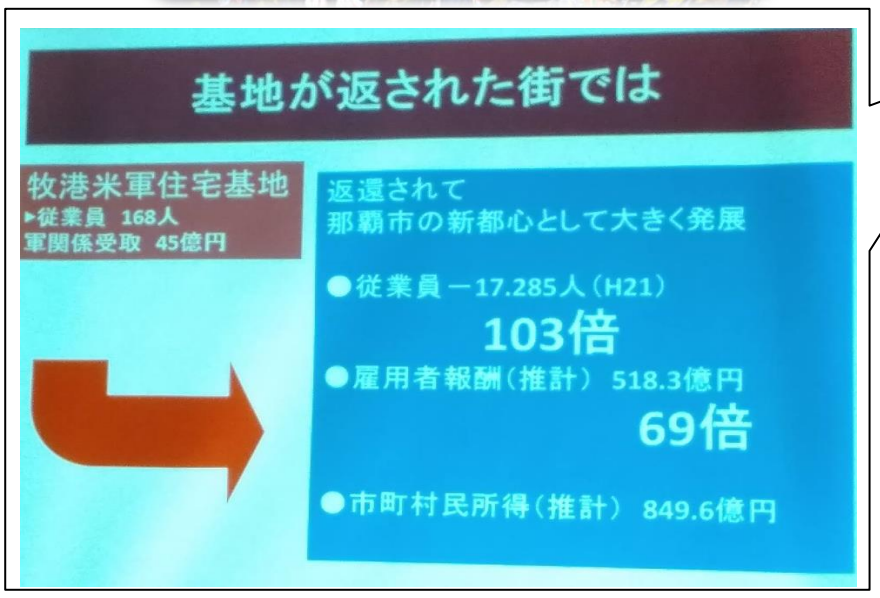
「おい若者よ。辺野古を守らんかい！」

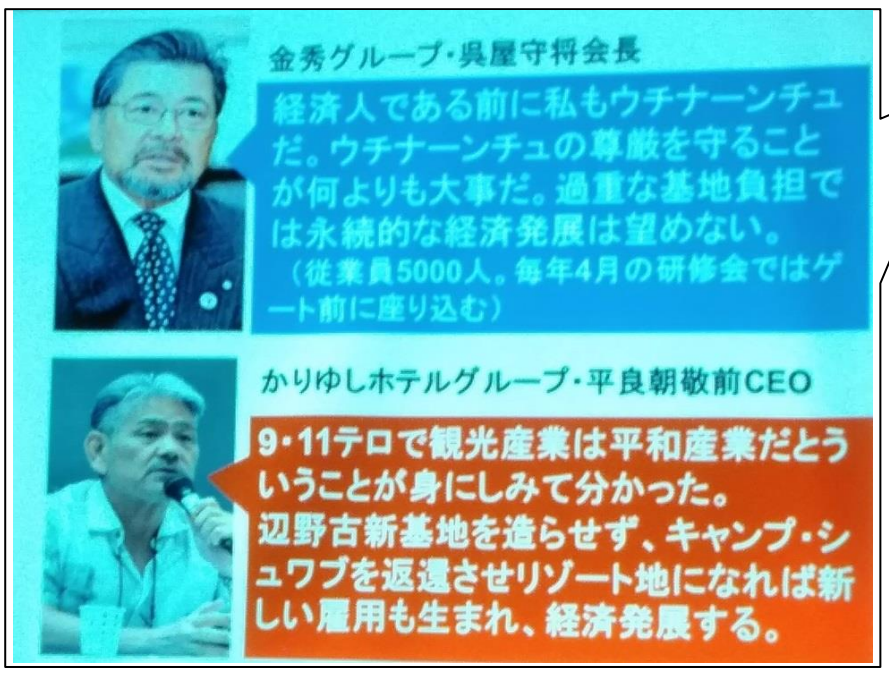
嘉陽のオジイとマチニーのオバア（写真左）が、集まるも躊躇して口火を開かない若者たちを一喝。オバアの一言「おい若者よ。辺野古を守らんかい！」が、若者たちの目を覚まさせた。

沖縄戦を生き延びた（生かされた）者の使命として、戦争につながる新たな基地を許さないこと、美ら海を守ることをティダー（太陽）に祈るオジイ・オバアたち。「残り短い命なら、人柱になってでも阻止する。守る。」と誓う。オール沖縄の原型・源流の一つ。

大地と歴史を動かす大運動に発展

保守、革新、経済界が統一戦線で
日米両政府の想像を超える力を発揮！





基地返還された地域で経済が急成長

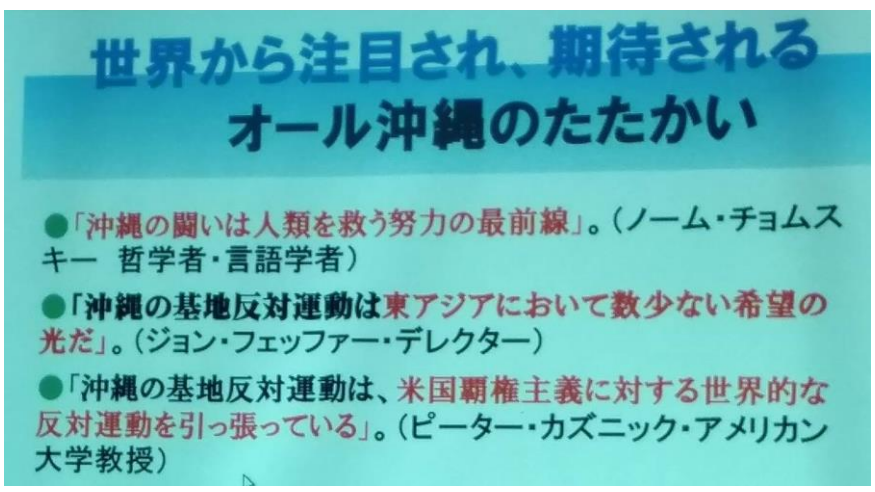
左図は、故・翁長知事が那覇市長だった時代の経済データ。翁長さんは那覇市長時代、那覇新都心の爆発的経済発展を目のあたりにしました。

1950 年代、沖縄経済に占める米軍基地関連の貢献度（依存度）は 50%以上でしたが、1972 年本土復帰後は 15%、現在では 5%と年々低下。これは、かつて自民党の中心で辺野古移設を推進する側に立っていた翁長さんが変わっていく大きなきっかけの一つでした。近年では、経済界も米軍基地が沖縄経済発展の大きな阻害要因になっているという認識に立っています。

経済界も「基地いらない」と認識を共有

金秀グループは従業員 5000 人を抱える、沖縄県内のトップ企業ですが、新入社員の研修場所は何と辺野古のゲート前。200 人の新入社員が 5～6 台のバスでやってきて、統一のシャツを着て座り込みに参加するそうです。自社で販売しているサーターアンダギーのお菓子の差し入れをみんなに配り、応援参加するそうです。みなさん、どうでしょうか？嬉しいですよね。こんな大企業、本土にありますか？本来企業とはどうあるべきか。地域や住民に愛される企業だと、住民も応援したくなりますよね。

世界から注目され期待されている沖縄のたたかい



その他、オール沖縄会議に国際平和ビューローが、「ショーン・マクブライド平和賞」を授与。ヘリ基地反対協に、韓国の「池学淳（チ・ハクスン）正義平和賞」が授与。国際世論は日米両政府を確実に追い込んでいる。

歴史は民衆がつくり
らせん状に発展する